

# 黒田精工株式会社

(証券コード： 7726)

## 2025年3月期 決算補足説明資料

### 【 目次 】

1. 2025年3月期 連結決算概要
2. 2026年3月期 通期連結業績予想・配当予想

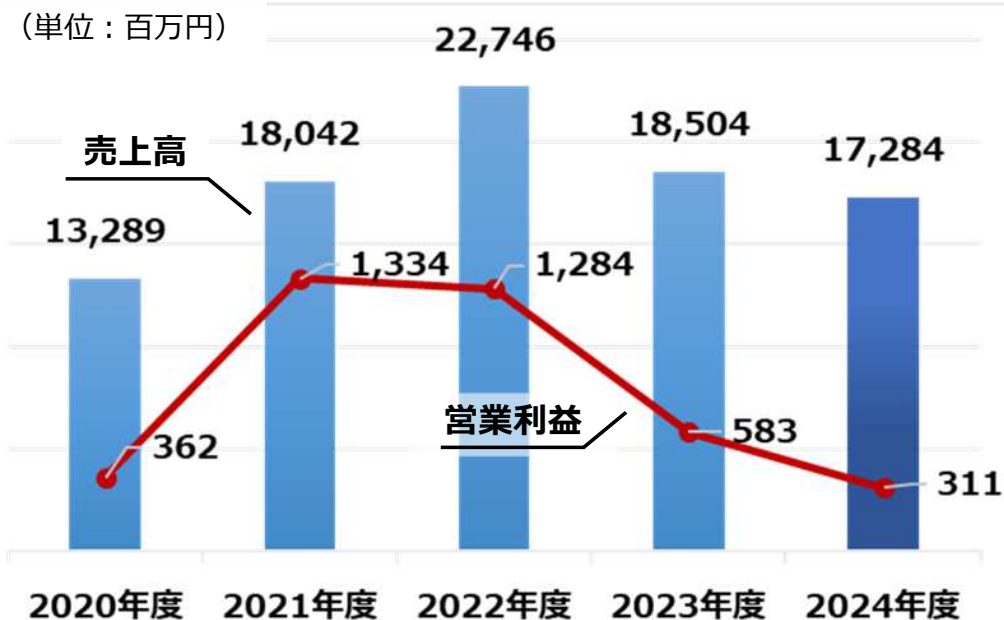
2025年5月14日

# 1. 2025年3月期 連結決算概要

# 2024年度 連結決算概要

(単位：百万円)	前年同期 (2024年3月期)	業績予想 (25年2月13日付)	2024年度 (2025年3月期)	増減 (前年同期比)	増減 (予想比)
受注高	17,264	-	18,239	+974	-
売上高	18,504	17,300	17,284	△1,220	△15
営業利益	583	440	311	△271	△128
経常利益	844	430	419	△425	△10
親会社株主に帰属する 当期純利益	498	120	172	△325	+52

(単位：百万円)

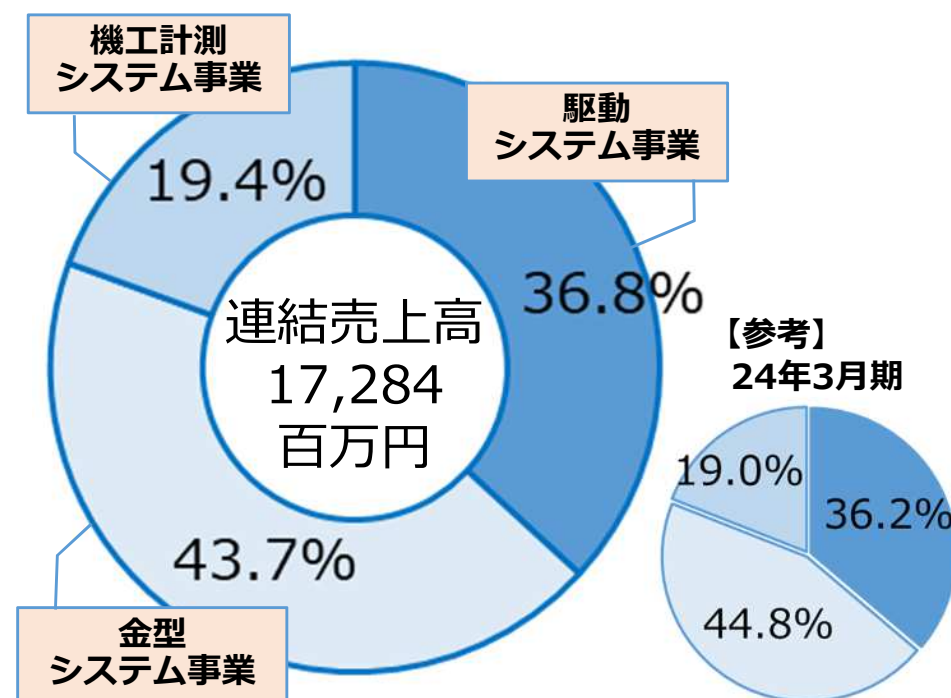


- ◆ 受注高は、世界的EVシフトの減速の影響を受けた一方、駆動システム製品及び家電用モーターコア等の増加により微増。期待していた回復には至らず。
- ◆ 売上高については、駆動システム製品及び車載向け金型やモーターコアの減少等により減収。利益面では、売上高の減少を受け、経費削減に取り組んだものの営業利益は311百万円、経常利益は419百万円と前期を下回る結果に。
- ◆ ドイツ子会社の業績回復に時間を要しており、中国経済の停滞を受けた中国子会社の業績も振るわず、駆動システムと機工計測システムが赤字に陥るなど全体的に厳しい決算となった。

# セグメント別概要

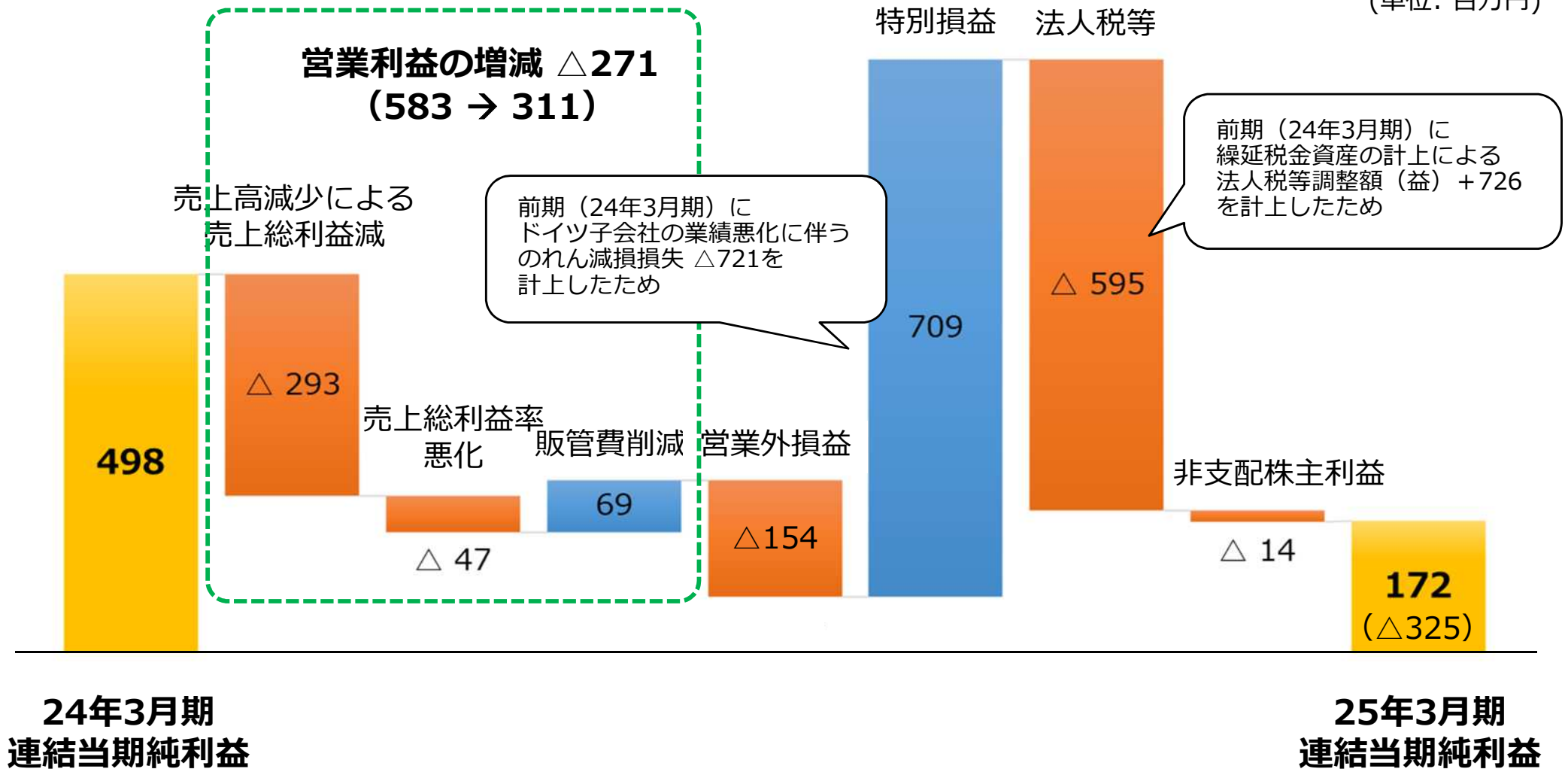
単位：百万円	受注高 (前年同期比増減)	売上高 (前年同期比増減)	営業損益 (前年同期比増減)
駆動システム事業	6,339 (+689)	6,371 (△340)	△125 (△34)
金型システム事業	8,459 (+280)	7,567 (△732)	580 (△184)
機工計測システム事業	3,457 (+22)	3,361 (△165)	△103 (△49)

- ◆ 駆動：主要顧客の半導体・液晶関連装置向け市場は、回復傾向が見られたものの、そのペースは緩やか。受注高は増加に転じた一方、期初の受注残が少なく売上高は低迷。ドイツ子会社は業績回復に至らず、利益率の高い研削ボールねじの減少等により営業損失を計上。
- ◆ 金型：家電用モーターコア等が堅調に推移したものの、EVシフトの減速に伴い、車載用モーターコア金型が減少。車載用モーターコアの主要ユーザーの生産調整も継続し、モーターコア製造設備の売上高も前期比で減少。営業利益も売上減少と固定費の増加により減益。
- ◆ 機工計測：受注高は微増となったものの、工作機械において当年度の売上高に寄与する案件が少なく、コンプレッサ・輸入販売事業からの撤退等もあり減収、営業損失に。



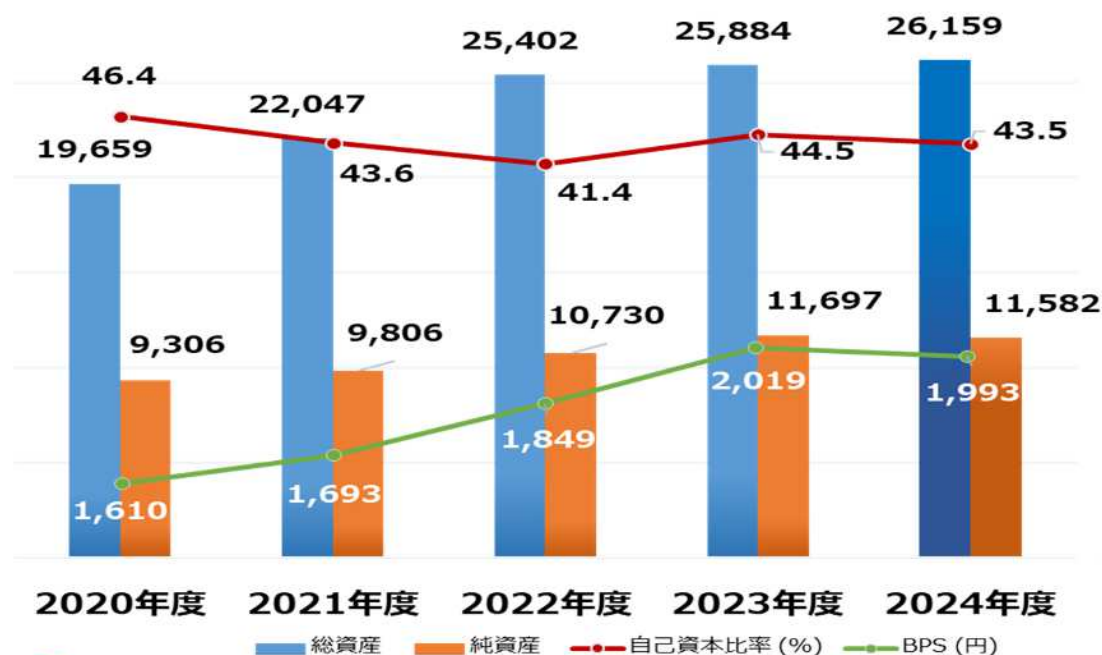
## 前年同期比 連結当期純利益の変動要因

(単位: 百万円)



# 連結貸借対照表

	2023年度 (2024年3月期)	2024年度 (2025年3月期)	増減
総資産 (百万円)	25,884	26,159	+ 275
純資産 (百万円)	11,697	11,582	△115
負債合計額 (百万円)	14,187	14,577	+ 390
自己資本比率	44.5%	43.5%	△1.0%
1株あたり純資産 (BPS) (円)	2,019	1,993	△26



◆ 総資産：前年度末比 +275百万円の増加

→ 流動資産 △ 529百万円 (売掛金、原材料等の減少)  
固定資産 + 804百万円 (建設仮勘定等の増加)

◆ 純資産：前年度末比 △115百万円の減少

→ その他の包括利益累計額 △ 128百万円  
(その他有価証券評価差額金等の減少)

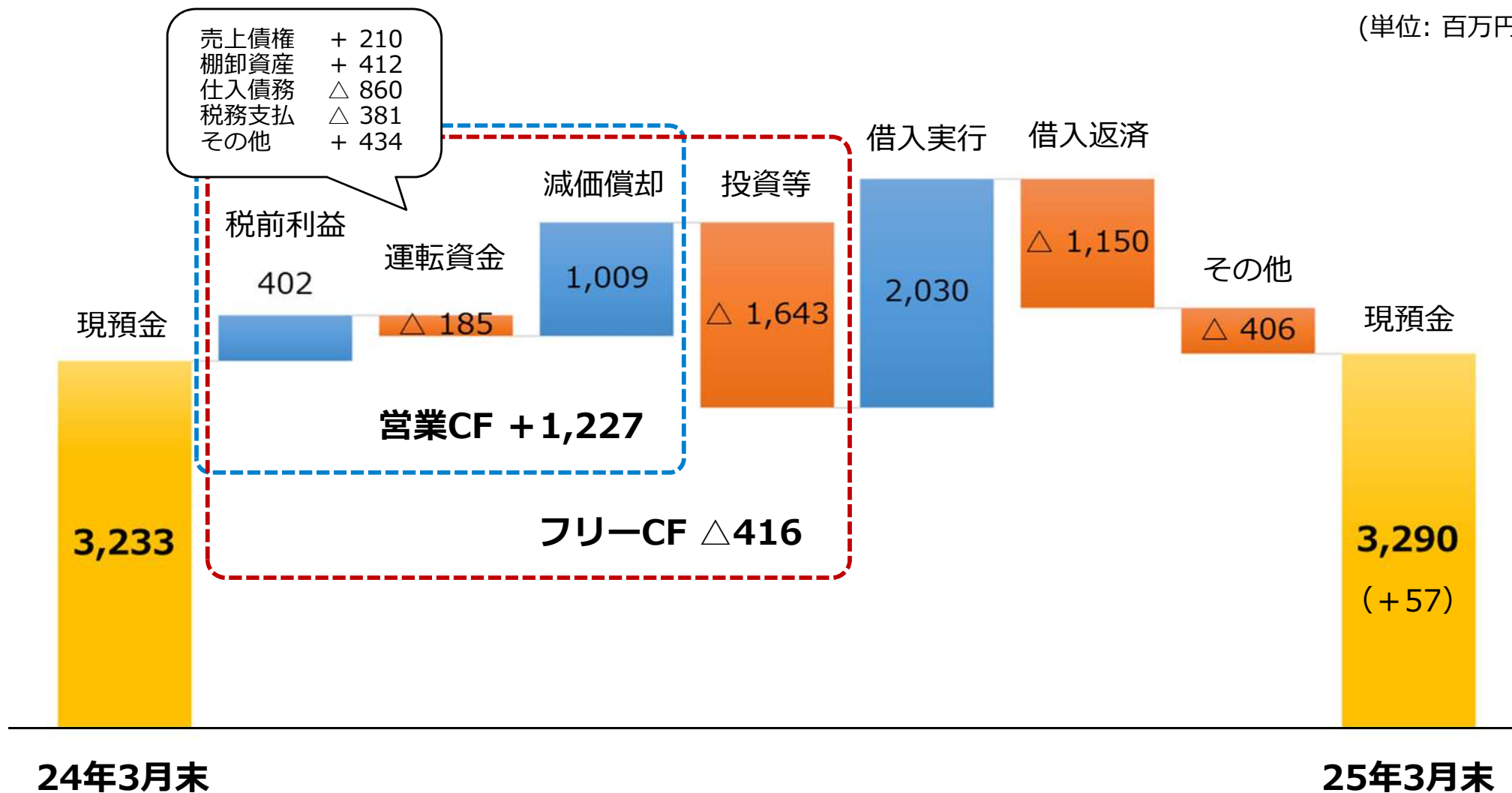
◆ 負債合計額：前年度末比 +390百万円の増加

→ 流動負債 + 285百万円 (短期借入金等の増加)  
固定負債 + 104百万円 (長期借入金等の増加)

◆ 自己資本比率：43.5% 前年度末比 △1.0%

## 前年同期比 連結キャッシュフローの変動要因

(単位: 百万円)



## 2. 2026年3月期 通期連結業績予想・配当予想



# 2025年度 通期連結業績/配当予想

注：単位記載の無い項目は百万円単位	2024年度 (2025年3月期)	2025年度 (2026年3月期)	前期比増減率
売上高	17,284	20,700	+ 19.8%
営業利益	311	700	+ 124.7%
経常利益	419	500	+ 19.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	172	310	+ 79.6%
1株あたり年間配当金（予定額）	20円00銭	30円00銭	—
配当性向（%）	66.2%	55.2%	—

- ◆ 25年度の連結業績は売上高 20,700百万円、営業利益 700百万円、経常利益 500百万円、親会社株主に帰属する当期純利益310百万円を見込む。
- ◆ 金型セグメントは、堅調な家電用モーターコアに加え、車載用モーターコアの主要ユーザーの生産回復により売上高を伸ばす一方、為替の影響、モーターコア生産の一部の自社内から提携先企業への移管、相対的に利益率が低い提携先企業へのモーターコア製造設備の売上増加により、利益面の伸びは抑えられる見込み。駆動システムおよび機工・計測システムは、海外を含む営業力強化、商品ラインナップの拡充、原価並びに経費削減を通して黒字転換を図る計画。
- ◆ 1株あたり年間配当は 30円/株（記念配当 10円を含む）を想定。

セグメント	見通し、計画
駆動システム事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 主要顧客である半導体製造装置市場は、生成AI等先端分野が牽引役となり回復が見られるものの、ボールねじを使うレガシー半導体関連の回復には時間がかかる見通し。米国や台湾、東南アジア等では好転の兆しも。</li> <li>◆ 今期は営業戦略を見直し、顧客基盤の再構築を図るとともに、今後の成長が期待できる直動システムの拡販を図る計画。同時に生産の自動化を進め、原価低減にも取り組む。また、業績回復に時間を要しているドイツ子会社の営業強化、生産体制の整備にも事業部をあげて取り組む予定。</li> </ul>
金型システム事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 世界的にEVシフトが減速する一方、PHV及びHEVへの揺り戻しが見られ、全体的な電動車市場の成長への期待は大きい。車載用モーターコア事業は電動車全体がターゲットであり、成長期待に変化はない。</li> <li>◆ 車載用モーターコア金型は、中国子会社での試作体制を活用し、中国でのEVプロジェクト獲得を強化。車載用モーターコア製品は前期停滞していた主要ユーザーの生産が回復、家電用モーターコアは堅調を維持する見込み。円高の進行と中国の希土類輸出規制によるマグネット供給がリスク。</li> <li>◆ 長野工場は新設の第9工場が完成、第4工場の改修に着手するとともに世界最大級高速プレス機の導入が完了。更なる生産体制の増強を推進中。今期は提携先企業での生産設備の増強も進める計画。</li> </ul>
機工計測システム事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 工作機械、要素機器ともに需要は緩やかな回復が見られるものの、競争環境は厳しくメーカー各社は苦戦が続いている模様。</li> <li>◆ 前期に発売したロータリー研削盤を中心に、付加価値の高い製品群の拡販を図るとともに、アジアを中心とした海外市場の開拓を継続することで売上高を拡大、低収益体質からの脱却を目指す。</li> </ul>

- 当資料は、投資家の皆さまに黒田精工株式会社への理解を深めて頂く事を目的として、経営や財務に関する情報を提供するものです。
- 当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。
- 当資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠することなく、ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

### 【お問い合わせ先】

黒田精工株式会社 経営企画室 IR担当

TEL：044-555-3800

ホームページ：<https://www.kuroda-precision.co.jp>